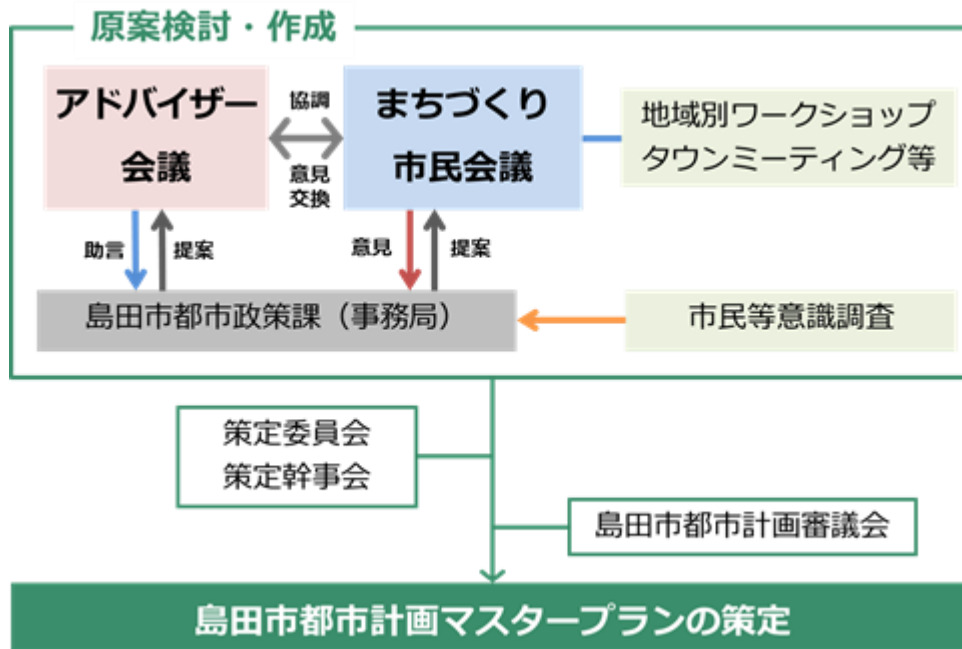


都市計画マスタープラン進捗状況

(都市基盤部都市政策課)

1 都市計画マスタープラン策定体制



2 スケジュール及び策定経過

| 会議名等 | 回数 | 会議名等 | 回数 |
|-----------|----|----------|-----|
| まちづくり市民会議 | 7回 | アドバイザー会議 | 3回 |
| 策定幹事会 | 4回 | 策定委員会 | 4回 |
| まちづくり講演会 | 1回 | 各課ヒアリング | 23課 |

| 会議名等 | 内容 |
|-----------|---|
| まちづくり市民会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・20年後の都市の姿（都市像）について意見交換 ・将来像の未来マップの検討 ・都市構造図、将来像のイラストマップの検討 ・実現に向けて分野別の方針の検討 |
| アドバイザー会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体構想（現況、課題、将来像）についてヒアリング実施 ・立地適正化計画の必要性及び課題について意見聴取 |
| 策定幹事会 | <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の報告 ・都市マスの改定に係る基本方針について ・市民意識調査（アンケート）内容について ・全体構想（都市の将来像）について |
| 策定委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の報告 ・都市マスの改定に係る基本方針について ・市民意識調査（アンケート）内容について ・全体構想（都市の将来像）について |

| | |
|--------------------|---|
| 人口減少社会におけるまちづくり講演会 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクト+ネットワークについて ・都市のスポンジ化対策について ・都市のにぎわいの創出について |
|--------------------|---|

全体構想

都市づくりの視点設定、都市の現況・特性の調査分析、市民等意識調査結果及び都市づくりの課題整理を踏まえ、都市の将来像、都市づくりの方針（土地利用や都市施設整備等の方針）などを定めます。

地域別構想

市内を6地域に区分して、それぞれの地域の将来像、施策の内容について定めます。

今年度

第1章 都市づくりの視点
 現計画における都市づくりの視点及び社会の潮流を踏まえ、本計画の改定において着目していく視点を設定します。

第2章 都市の現況・特性の調査分析
 人口・産業の動向、生活サービス施設などの立地状況及び都市基盤の整備状況など、都市の現況・特性を整理した上で、都市構造の「強み」と「弱み」を明らかにします。

第3章 市民等意識調査結果
 市民意識調査と島田市・焼津市・藤枝市にて行った Web アンケートの結果から、市民等の意見を整理します。

第4章 都市づくりの課題整理
 本市の「強み」と「弱み」、市民等意識調査結果などを踏まえ、都市づくりの課題を整理します。

第5章 都市の将来像
 本市の目指す基本理念を定めるとともに、都市の将来像、将来都市フレーム、将来都市構造を定めます。

第6章 都市づくりの方針
 都市の将来像の実現に向け、概ね20年間において取り組む土地利用や都市施設整備など、都市づくりの方針を定めます。

第8章 計画の実現に向けて
 市民と行政との協働の都市づくりに向けた役割分担や、計画策定後の進行管理に当たっての基本的な考え方を定めます。

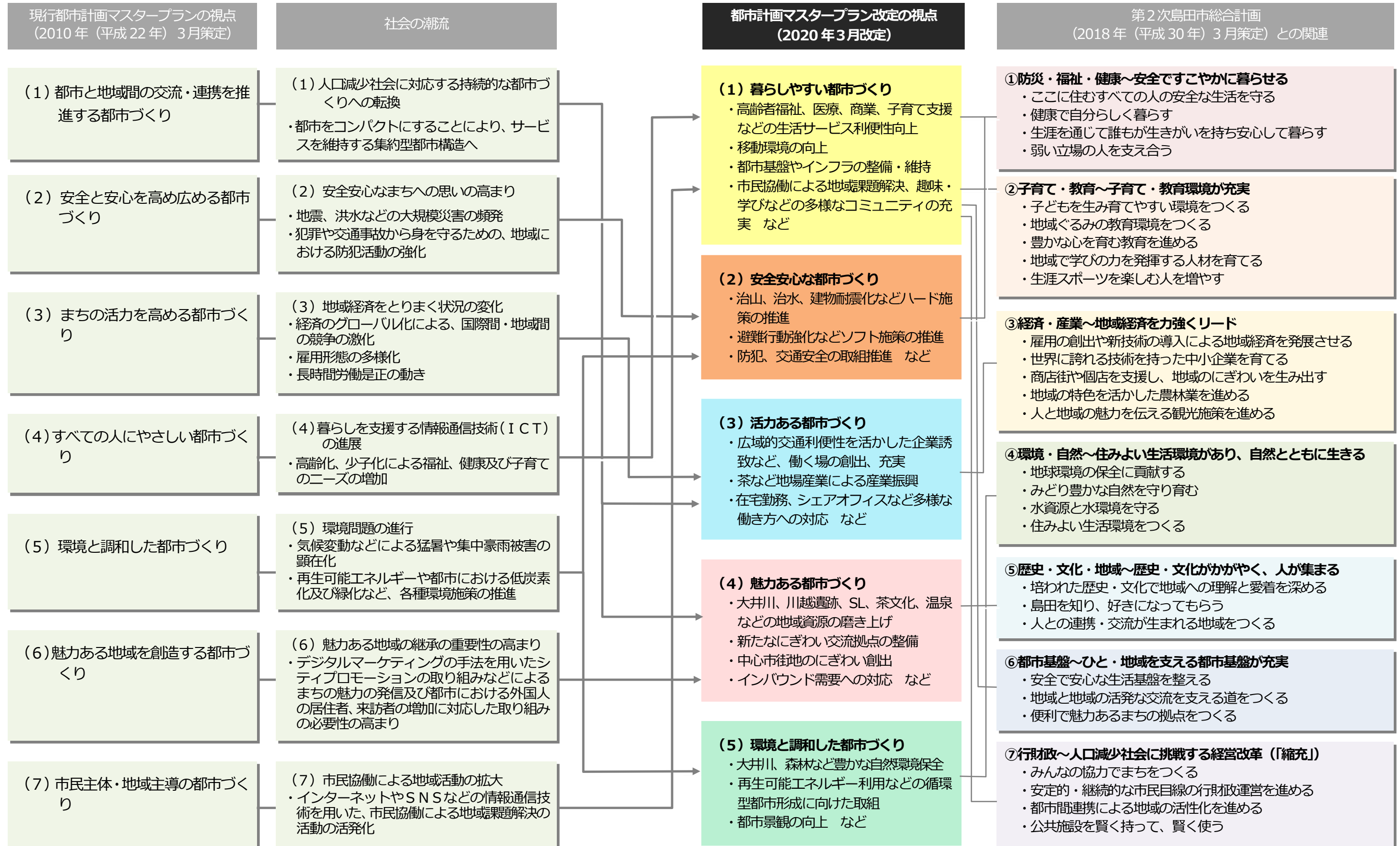
第7章 地域別構想

旧行政界、日常圏域である中学校区及び第2次島田市総合計画の地域区分などを踏まえて設定した6地域において、地域ごとの課題に応じた身近なまちづくりの目標及び方針を定めます。

【地域区分】

- 中心・大津地域
- 六合地域
- 初倉地域
- 金谷地域
- 大長・伊久身地域
- 川根地域

表 都市づくりの視点のまとめ ※未定稿



都市の現況、特性の調査分析のまとめ ※未定稿

以上の現況及び特性の調査分析のまとめを、本市の「強み」、「弱み」として、以下に整理します。

■本市の「強み」「弱み」

| 項目 | | 本市の「強み：○」「弱み：△」 |
|-------------|--|--|
| 1 都市の暮らしやすさ | 人口 | ○ 出生率は全国平均に比べやや高い ○ 大学進学時に市外流出は多いが、就職を機に市内に戻る傾向 △ 今後20年間で約20%の人口減の予測 |
| | 土地利用・住宅 | △ 市街地は45年間で2倍拡大するも人口密度は低下し、今後市街地目安の40人/ha以下となる懸念 |
| | 生活サービス施設、公共公益施設 | ○ 旧市町の中心部周辺や人口集中地区は生活サービス施設などが立地し利便は高い |
| | 都市基盤 | ○ 都市計画道路の整備率は高い △ 都市計画公園・緑地の整備率は低い |
| | 交通 | ○ JR東海道本線、大井川鉄道により、公共交通の骨格が形成されている △ 自動車依存度、運転免許保有率が周辺都市の平均よりも高い(車が使えないと移動しづらい) △ 鉄道、バスの公共交通網が市内全体を網羅するが、人口の約19%が公共交通空白地域に居住 |
| 都市運営 | △ 生産年齢人口の減少による税収減、高齢化による社会保障関連費の増 △ 公共施設・インフラ老朽化による維持管理費の増加 | |
| 2 都市の安全安心 | ○ 地震時の津波及び液状化の危険性が低い ○ 避難地は適正配置 △ 空き家の増加 △ 市街地の一部は大井川の洪水浸水想定区域内 △ 用途地域の外縁部などが、土砂災害警戒区域の指定地 | |
| 3 都市の活力 | ○ 東名・新東名高速道路、国道1号など広域幹線道路の要衝である ○ 新東名高速道路IC周辺に用途地域拡大 ○ 製茶や大井川の水資源を活用した産業の発達 ○ 世界とつながる富士山静岡空港の立地 △ 製造業における事業所数・製造品出荷額の減少 △ 通勤流動における他市町への流出超過 | |
| 4 都市の魅力 | ○ 大井川、旧東海道、大井川鉄道のSL、温泉などの豊富な観光資源による観光客、宿泊客の増加 ○ 島田市緑茶化計画によるシティプロモーション展開 △ 商店・従業員数の減少、中心市街地の商店街の低迷 △ 空き地の増加 | |
| 5 都市の環境と調和 | ○ 大井川を中心に、豊かな森林や農地が、市街地、集落地の周りに広がり、良好な都市環境に寄与 ○ 自然、歴史及び文化の良好な景観が存在 △ 林業や農業の担い手が減少し良好な森林や農地環境の維持が懸念 | |

都市計画マスタープランの改定に係る市民アンケートの結果概要

(都市基盤部都市政策課)

1 概要

島田市民及び近隣市住民など島田市内外から本市の現況等を把握するため、郵送方式に加えてウェブ方式の2つの手法で実施した。

郵送方式では、アンケート調査票の配布数2,000人に対して、961人(48.1%)の方から回答があった。ウェブ方式では、配信2日で回収目標である500人の回答を得た。

| | 郵送方式 | ウェブ方式 |
|-------|----------------------------------|--------------------------------------|
| 調査地域 | 島田市全域 | 島田市、焼津市、藤枝市(志太3市) |
| 調査対象者 | 20歳以上79歳までの市内在住者を 2,000人無作為抽出 | 楽天インサイト(株)における志太地域のモニター 一会員5,735人 |
| 調査期間 | 平成30年8月10日～8月24日 | 平成30年8月10日～8月12日 |
| 回収数 | 961 | 500 |
| 回収率 | 48.1% | — |

2 郵送方式

(1) 市のイメージ

現在の島田市のイメージで最も多いのは「豊かな自然や水と緑の共生するまち」(特に思う10%+そう思う66%=76%)となっています。

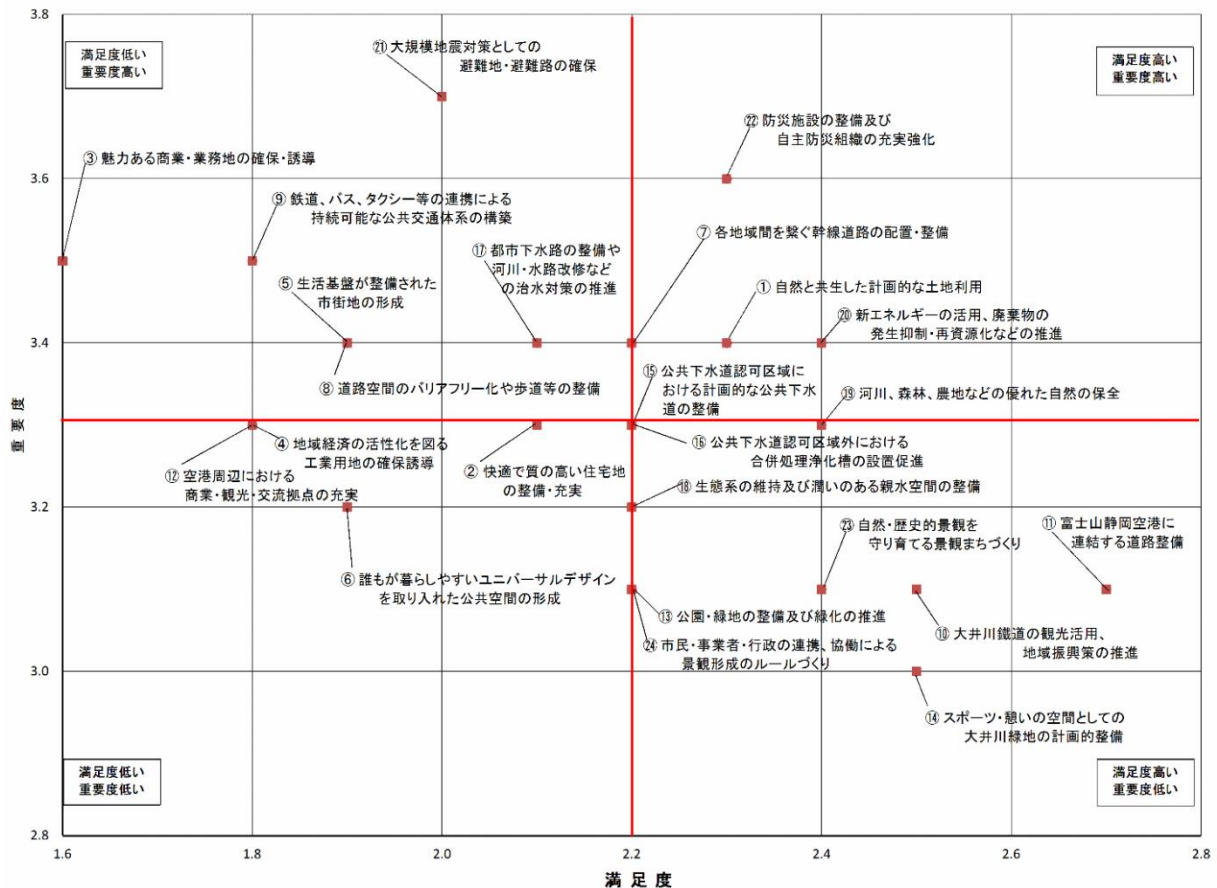
一方、「にぎわい、市民サービス等の多様な都市機能や企業誘致などの産業振興により、新しい交流が生まれるまち」(そう思わない53%)、「都市間交通や情報発信の拠点として「ひと・もの・情報」が行き交い、活力を創出するまち」(そう思わない52%)のイメージが低くなっています。



(2) 市全体のまちづくりに対する「満足度」、「重要度」

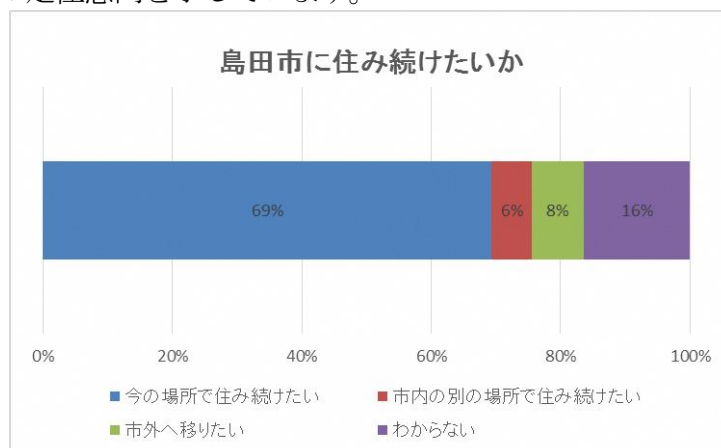
「満足度が低く、重要度が高い」次の項目（図の左上部分）が、まちづくりの施策としての優先度が高いと考えられます。

- ②大規模地震対策としての避難地・避難路の確保
- ③魅力ある商業・業務地の確保・誘導
- ⑨鉄道、バス、タクシー等の連携による持続可能な公共交通体系の構築
- ⑤生活基盤が整備された市街地の形成
- ⑧道路空間のバリアフリー化や歩道等の整備
- ⑰都市下水路の整備や河川・水路改修などの治水対策の推進



(3) 今後の居住環境

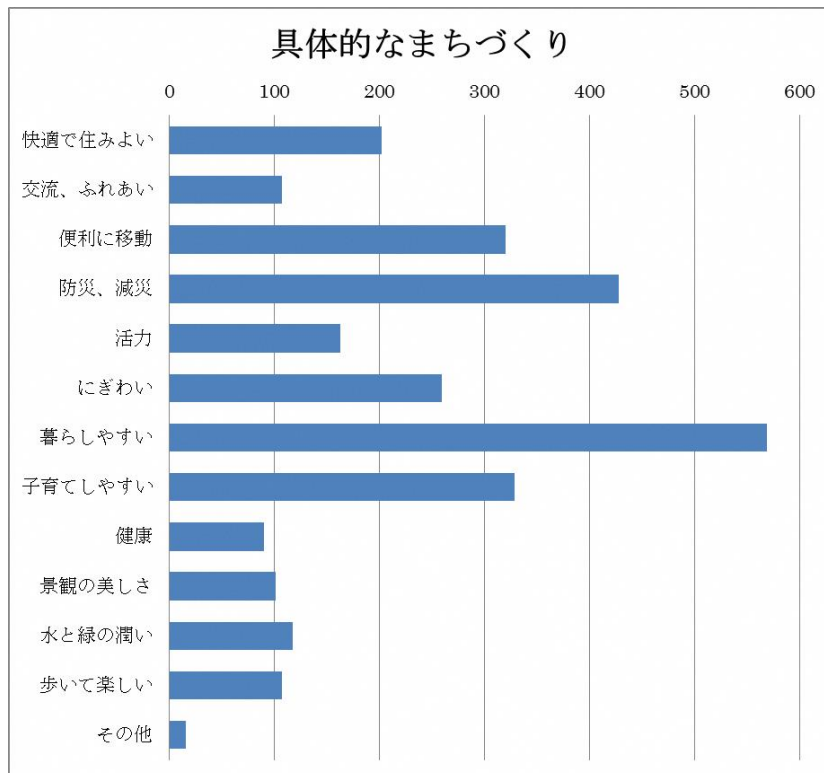
「今の場所で住みたい」（69%）と「市内の別の場所で住みたい」（6%）を合わせて約3/4の方が島田市での定住意向を示しています。



移りたい方の理由は様々ですが、「買い物や病院、公共交通など、日常生活が不便」、「車の運転ができなくなる老後が不安（公共交通の不便さ）」、「道路環境や、公害・災害、コミュニティなど、居住環境に関する不満・不安」などの理由が多くなっています。希望する移転先は、「静岡県内」（移転先回答者の内、69%）が多くなっています。

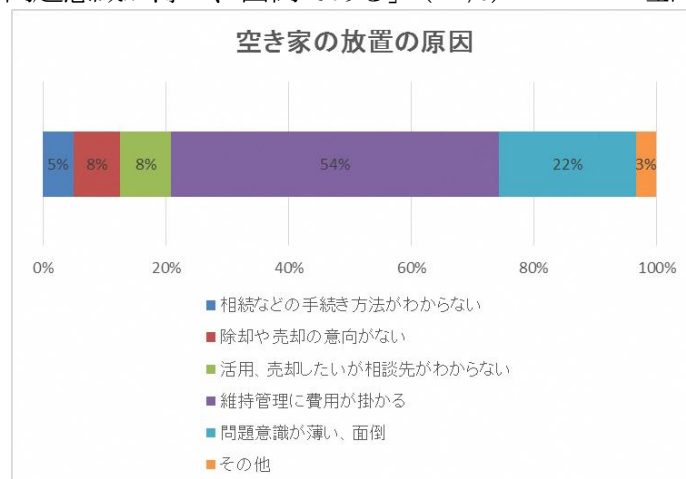
(4) まちづくりの方向性

これからのまちづくりについては、「医療・福祉環境が充実した【暮らしやすい】まち」、「地震・大雨などの自然災害に強い【防災・減災】のまち」、「子育て・教育環境が充実した【子育てしやすい】まち」、「道路や公共交通網が整備され、市内外に誰もが【便利に移動】できるまち」、「魅力ある商業環境を整えた【にぎわい】のあるまち」の順に多くなっています。



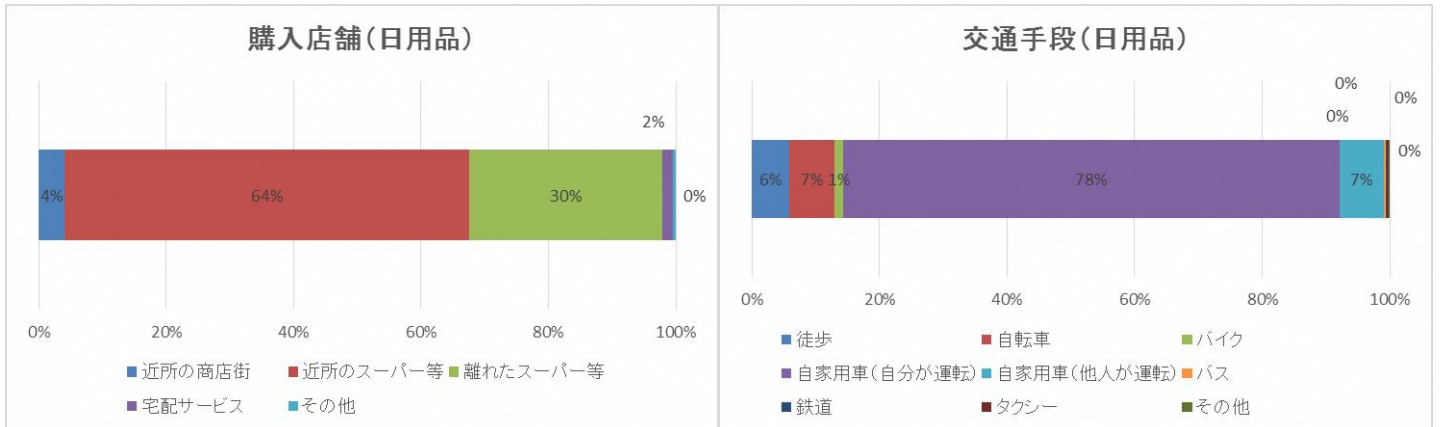
(5) 空き家問題

空き家が放置される理由として、「建物の除却や維持管理に費用がかかる」（54%）、「所有者が遠方に居住しており問題意識が薄い、面倒である」（22%）の2つの理由が多くなっています。



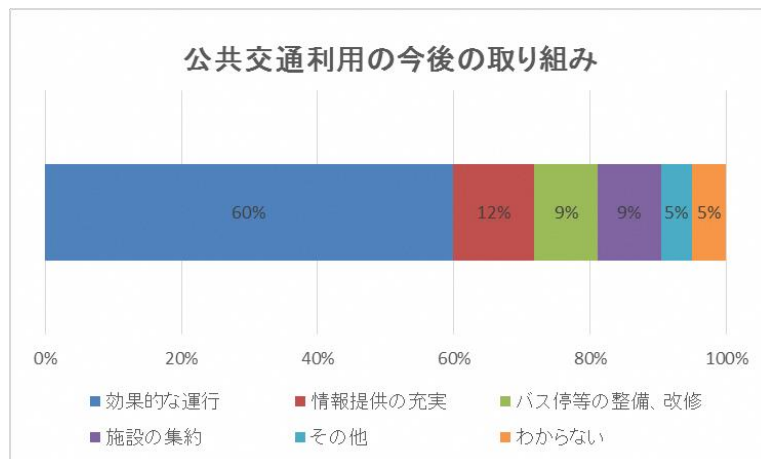
(6) 日常生活と交通手段

日用品の買い物は、「近所のスーパーや大型店舗」(64%)、「自宅から離れたスーパーや大型店舗」(30%)が大半を占めており、「自家用車(自分で運転)」(78%)「自家用車(他の人が運転)」(7%)と、車への依存率が高くなっています。



(7) 移動手段と公共交通

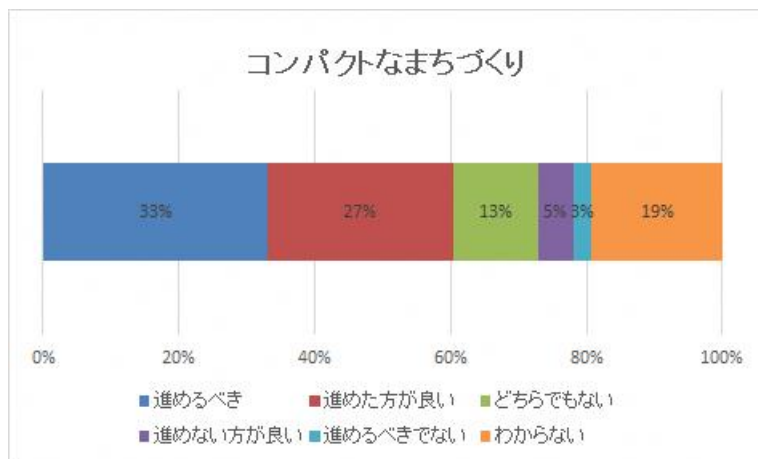
鉄道、バスなどの公共交通を利用できるようにするために、今後、必要な取り組みとして、「利用ニーズや地域状況を踏まえた、効果的なバスやタクシーなどの運行」(60%)の回答が多く、その他の取り組みは「時刻表や料金、路線図、乗換案内等の情報提供の充実」(12%)「乗り継ぎ、待合などがしやすい駅前広場やバス停の整備・改修」(9%)、「駅やバス停周辺への公共公益施設や商業施設の集約」(9%)と同程度の回答となっています。



(8) コンパクトシティ施策

コンパクトなまちづくりを進めるべきかどうかの問いに対して、「コンパクトなまちづくりを進めるべきである」(33%)、「どちらかといえば、進めた方が良い」(27%)と賛成の回答が60%、「どちらかといえば、進めない方が良い」(5%)、「進めるべきでない」(3%)と反対の意見が8%と、賛成の意見が多くなっています。

一方、「どちらでもない」(13%)と「わからない」(19%)の回答(合わせて32%)も多くありました。



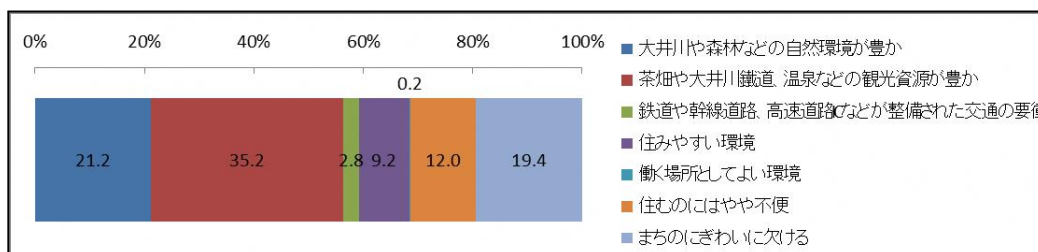
3 ウェブ方式

(1) 市のイメージ

「茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か」が回答率35%と最も多く、次いで「大井川や森林などの自然環境が豊か」(21%)となり、観光資源や自然環境が豊かと回答した方が半数以上であった一方、「まちのにぎわいに欠ける」と回答した方が20%でした。

地域別で見ると、焼津市、藤枝市は「茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か」の回答率が最も高く、次いで「大井川や森林などの自然環境が豊か」、「まちのにぎわいに欠ける」だったのに対し、島田市では「まちのにぎわいに欠ける」が最も高く、次いで「茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か」、「大井川や森林などの自然環境が豊か」となりました。島田市と他2市で順位にこそ違いはありますが、島田市に抱くイメージにおいては、共通している傾向がありました。

【全体集計】



【市別集計】

| Q1:現在の島田市のイメージについて | | | | | |
|--------------------|-----------------------------|-------|-------|-------|--------|
| | | 島田市 | 藤枝市 | 焼津市 | 全体 |
| 1 | 大井川や森林などの自然環境が豊か | 4.8% | 7.8% | 8.6% | 21.2% |
| 2 | 茶畑や大井川鐵道、温泉などの観光資源が豊か | 6.4% | 14.8% | 14.0% | 35.2% |
| 3 | 鉄道や幹線道路、高速道路ICなどが整備された交通の要衝 | 1.0% | 1.0% | 0.8% | 2.8% |
| 4 | 住みやすい環境 | 4.6% | 1.6% | 3.0% | 9.2% |
| 5 | 働く場所としてよい環境 | 0.0% | 0.0% | 0.2% | 0.2% |
| 6 | 住むのにはやや不便 | 3.0% | 4.2% | 4.8% | 12.0% |
| 7 | まちのにぎわいに欠ける | 9.4% | 6.0% | 4.0% | 19.4% |
| | 全体 | 29.2% | 35.4% | 35.4% | 100.0% |



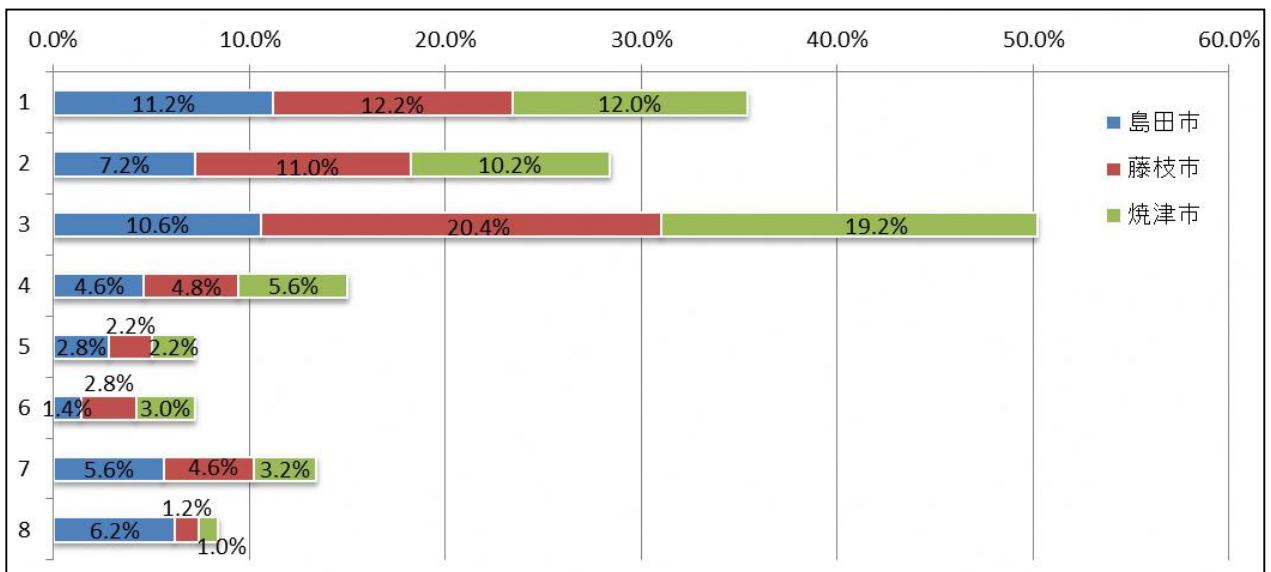
(2) 市の魅力

「大井川鐵道」(50%) が最も多く、次いで「お茶」(35%)、「大井川」(28%) でした。地域別でみると、「大井川鐵道」と回答した方のうち、島田市は11%であったのに対し、焼津市、藤枝市は20%程度との回答があり、他市においては「大井川鐵道」が大きな魅力となっています。

「比較的災害の危険性が低い」については、焼津市及び藤枝市では1%の回答でしたが、島田市では6%と市内在住者ならではの傾向も見られました。

Q2: 島田市の魅力について

| | | 島田市 | 藤枝市 | 焼津市 | 全体 |
|-----------------------|---|-------|-------|-------|-------|
| 1お茶 | 1 | 11.2% | 12.2% | 12.0% | 35.4% |
| 2大井川 | 2 | 7.2% | 11.0% | 10.2% | 28.4% |
| 3大井川鐵道 | 3 | 10.6% | 20.4% | 19.2% | 50.2% |
| 4東海道の宿場などの歴史的景観 | 4 | 4.6% | 4.8% | 5.6% | 15.0% |
| 5温泉 | 5 | 2.8% | 2.2% | 2.2% | 7.2% |
| 6祭りやイベントの開催 | 6 | 1.4% | 2.8% | 3.0% | 7.2% |
| 7JRや空港、新東名ICなど交通の便がよい | 7 | 5.6% | 4.6% | 3.2% | 13.4% |
| 8比較的災害の危険性が低い | 8 | 6.2% | 1.2% | 1.0% | 8.4% |

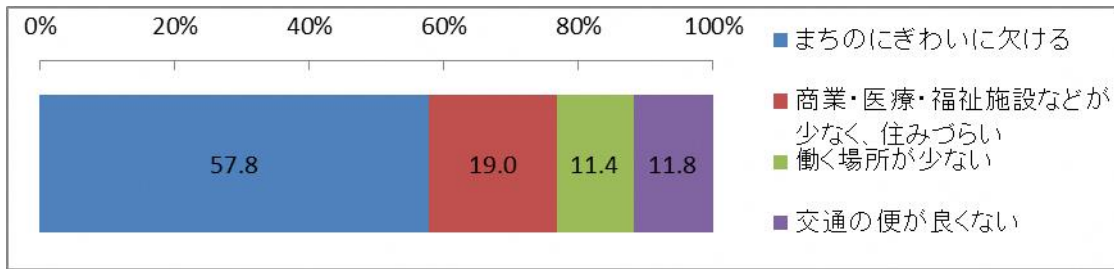


(3) 市の課題

「まちのにぎわいに欠ける」(58%)が最も多く、次いで「商業・医療・福祉施設などが少なく、住みづらい」(19%)でした。

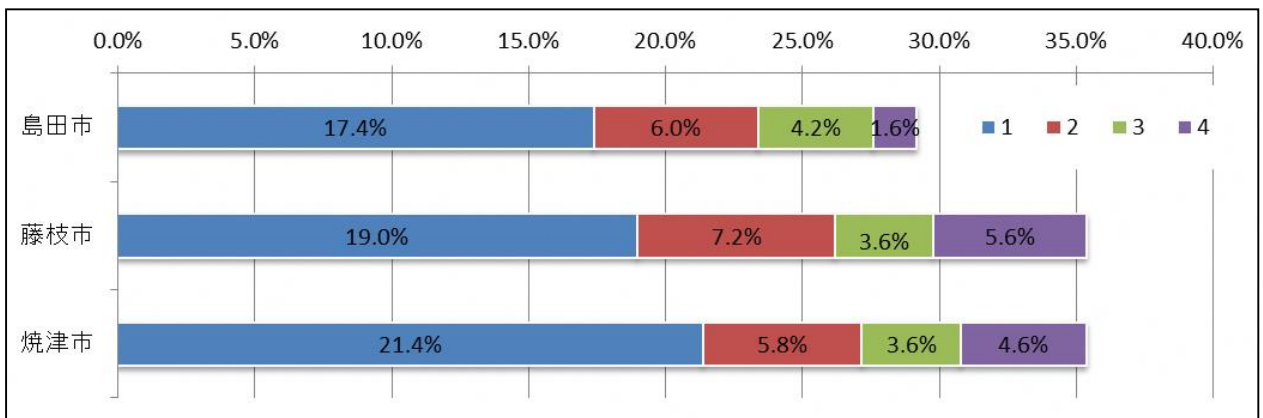
地域別でみると、いずれの市も「まちのにぎわいに欠ける」と回答した方が多くみられました。また、「交通の便が良くない」については、焼津市(5%)、藤枝市(6%)は島田市(2%)よりもやや多い傾向にあります。

【全体集計】



【市別集計】

| Q3: 島田市の課題について | | | | | |
|--------------------------|----|-------|-------|-------|--------|
| | | 島田市 | 藤枝市 | 焼津市 | 全体 |
| 1 まちのにぎわいが欠ける | 1 | 17.4% | 19.0% | 21.4% | 57.8% |
| 2 商業・医療・福祉施設などが少なく、住みづらい | 2 | 6.0% | 7.2% | 5.8% | 19.0% |
| 3 働く場所が少ない | 3 | 4.2% | 3.6% | 3.6% | 11.4% |
| 4 交通の便が良くない | 4 | 1.6% | 5.6% | 4.6% | 11.8% |
| | 全体 | 29.2% | 35.4% | 35.4% | 100.0% |

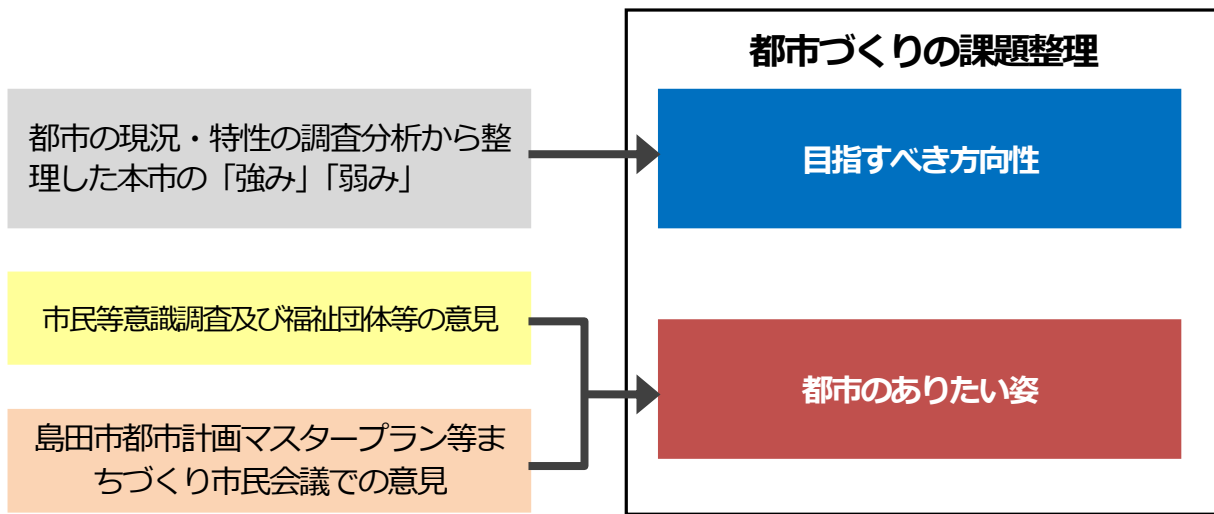


都市づくりの課題整理

課題整理の方法

都市づくりの課題は、都市の現況・特性の調査分析から整理した本市の「強み」と「弱み」から「目指すべき方向性」を、また市民等意識調査結果、福祉団体等とのヒアリング結果及び島田市都市計画マスタープラン等まちづくり市民会議の意見から「都市のありたい姿」を整理します。

図 都市づくりの課題整理の方法



目指すべき方向性 ※未定稿

都市の現況・特性の調査分析による本市の「強み」と「弱み」から、都市の目指すべき方向性を以下のように整理しています。

| | 都市の現況・特性の調査分析（強み・弱み） | 目指すべき方向性 |
|------------------|---|---|
| 都市の暮らしやすさ | <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出生率は全国平均に比べやや高い 大学進学時に市外流出は多いが、就職を機に市内に戻る傾向 旧市町の中心部周辺や人口集中地区は生活サービス施設などが立地し利便は高い 都市計画道路の整備率は高い JR 東海道本線、大井川鐵道により、公共交通の骨格が形成されている <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後 20 年間で約 20%の人口減の予測 市街地は 45 年間で 2 倍拡大するも人口密度は低下し今後市街地目安の 40 人/ha 以下となる懸念 都市計画公園・緑地の整備率は低い 自動車依存度、運転免許保有率が周辺都市の平均よりも高い（車が使えないと移動しづらい） 鉄道、バスの公共交通網が市内全体を網羅するが、人口の約 19%が公共交通空白地域に居住 生産年齢人口の減少による税収減、高齢化による社会保障関連費の増 公共施設・インフラ老朽化による維持管理費の増加 | <ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会においても持続可能となるコンパクトな都市の形成 地域の拠点に都市機能を誘導し、高齢者をはじめとした全ての世代が暮らしやすいと感じる都市の形成 多様な交通手段を展開し、拠点間を結ぶネットワークの形成 子育て世代をはじめとする全ての世代が暮らしやすい居住環境の創出 選択と集中による、効果的な都市基盤（道路、公園緑地など）の整備、維持管理 |
| 都市の安全安心 | <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震時の津波及び液状化の危険性は低い 避難地は適正配置 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家の増加 市街地の一部は大井川の洪水浸水想定区域内 用途地域の外縁部などが、土砂災害警戒区域の指定地 | <ul style="list-style-type: none"> 空き家の発生を抑制し、利活用又は除却の促進 大規模災害に備えた防災・減災の取組の推進 誰もが健康でアクティブな暮らしができる都市環境の創出 |
| 都市の活力 | <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東名・新東名高速道路、国道 1 号など広域幹線道路の要衝である 新東名高速道路 IC 周辺に用途地域拡大 茶業や大井川の水資源を活用した産業の発達 世界とつながる富士山静岡空港の立地 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業における事業所数・製造品出荷額の減少 通勤流動における他市町への流出超過 | <ul style="list-style-type: none"> 交通の要衝を活用した活力の創出 低未利用地の有効活用により、にぎわい空間の創出 新たな企業立地や働く場の創出のための産業用地の確保 産業の高付加価値化やブランド化の推進 |
| 都市の魅力 | <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大井川、旧東海道、大井川鐵道の SL、温泉などの豊富な観光資源による観光客、宿泊客の増加 島田市緑茶化計画によるシティプロモーションの展開 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店・従業員数の減少、中心市街地の商店街の低迷 空き地の増加 | <ul style="list-style-type: none"> まちの顔となる中心市街地における、にぎわいの創出 今後の成長が見込まれる観光産業を中心に地域の活性化を図りながら、新たなにぎわいの創出 地域資源を活用した観光拠点を結ぶネットワークの構築 地域資源の再確認などにより、住民が地域への愛着を感じる取り組みの推進 |
| 都市の環境 | <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大井川を中心に、豊かな森林や農地が、市街地、集落地の周りに広がり、良好な都市環境に寄与 自然、歴史及び文化の良好な景観が存在 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業や農業の担い手が減少し良好な森林や農地環境の維持が懸念 | <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然景観や都市環境の保全・活用 温室効果ガスの増加による気候変動やエネルギー問題の顕在化を踏まえた、低炭素や循環型都市の形成 自然、歴史及び文化と調和した景観の形成 |

都市のありたい姿 ※未定稿

市民等意識調査結果、福祉団体等とのヒアリング結果及び島田市都市計画マスタープラン等まちづくり市民会議の意見を、5つの視点別に考えた都市のありたい姿を以下のように整理しています。

市民等意識調査結果

【本市のイメージで「そう思う」の多数意見】

- ・豊かな自然や水と緑と共生するまち

【本市のイメージで「そう思わない」の多数意見】

- ・活力を創出するまち
- ・にぎわいが生まれるまち

【今後のまちづくりの方向性の多数意見】

- ・暮らしやすいまち
- ・子育てしやすいまち
- ・安全安心のまち
- ・活力やにぎわいあるまち

島田市都市計画マスタープラン等まちづくり市民会議意見「今後の都市のありたい姿」

ICT 進展などによる暮らしのゆとりと利便性向上

- ・情報通信、自動運転などの ICT を活用し、福祉、買物などのサービス享受

趣味・学びなどを通じた様々なコミュニティの充実

- ・働く世代などの、子育てなど家族のための活動、防災・減災・防犯などの活動への参加が増加
- ・地域課題解決のため、共通の目的や趣味を持つコミュニティ活動が活発化し、思いや楽しみを共有できる環境が拡大

時間や場所を問わない、多様な働き方の実現

- ・在宅勤務やサテライトオフィスといったテレワークが一般化し、時間や場所を問わず働くことができる環境に
- ・仕事をしながら、自然や農と共存した暮らしを享受

自然・歴史・観光などの資源を活かしたまちの賑わい向上

- ・大井川、川越遺跡、蓬菜橋、SL などの魅力を磨き上げ、つなげることで、多くの観光客が集い楽しむ
- ・IC 周辺、空港周辺、島田駅周辺などに、にぎわい交流の拠点を設け、島田の魅力を観光客と市民が共に楽しむ
- ・多くの外国人観光客が島田を訪れ、その魅力を楽しむ

都市のありたい姿

都市の暮らしやすさ

- ・病院、福祉及び買い物などのサービスが便利に受けられるまち
- ・子育てがしやすいまち
- ・ICT などが活用された便利なまち
- ・公共交通などにより便利に移動ができるまち
- ・多様な地域コミュニティを育む拠点の整備

都市の安全安心

- ・大規模災害や自然災害に強い、防災・減災のまち
- ・街灯の充実などにより、誰もが安心して暮らせるまち

都市の活力

- ・魅力ある企業などの誘致により、若者が働ける場が多く、活気があるまち
- ・場所や時間を問わず、多様な働き方ができるまち

都市の魅力

- ・中心市街地で、若者など多くの市民が集い楽しむことができるまち
- ・大井川をはじめとする多くの地域資源を磨き、つなげることで、外国人も含めた多くの来訪者が集い楽しむことができるまち

都市の環境

- ・豊かな自然環境や都市環境と共生した暮らしができるまち
- ・森林やお茶などの地域資源を活用したまち
- ・産業や住宅地のまち並みが自然環境と調和したまち

【コラム：島田市都市計画マスタープラン等まちづくり市民会議での「島田市のありたい姿」】

まちづくり市民会議では、今後の人口減少や ICT の進展など社会の潮流を踏まえ、「島田市のありたい姿」を検討しました。「未来投資戦略 2018」（2018 年 6 月、内閣官房）、「スマートシティの実現に向けて・中間とりまとめ」（2018 年 8 月、国土交通省都市局）などで示されている今後の社会や都市のあり方も踏まえた検討結果は次のとおりです。

（1）ICT 進展などによる、暮らしのゆとりと利便性向上

- ・情報通信、自動運転などの ICT を活用し、距離的・物理的な制約にとらわれず、車を運転しなくても医療、福祉及び買物などのサービスを受けることができる。
- ・通勤などの移動に要する時間が削減され、特に働く世代が、育児や家族のために時間を有効利用できる。

（2）趣味・学びなどを通じた様々なコミュニティの形成

- ・地域課題の解決のみならず、子育て、健康、趣味及び学びなど市民の共通の関心ごとにおけるコミュニティ活動が活発になり、人と人とのつながりが生まれ、思いや楽しみを共有できる環境が広がる。

（3）時間や場所を問わない、多様な働き方の実現

- ・在宅勤務やシェアオフィスなどテレワークが一般化し、時間や場所を問わず働くことができる環境が整備される。
- ・多様な働き方が広がることで、仕事と育児や介護などと両立がしやすい環境となるとともに、女性や高齢者など就労が促進される。
- ・本市の豊かな自然や農と共生した働き方も実現できる。

（4）自然、歴史及び観光などの資源を活かした、まちのにぎわい向上

- ・大井川をはじめとした豊かな自然、川越遺跡、蓬萊橋、大井川鉄道の SL など、他のまちにない魅力を磨き上げ、つなげることで、多くの観光客が集い楽しむ。
- ・高速道路 IC 周辺、富士山静岡空港周辺、島田駅周辺といった市の玄関口に、にぎわいの交流拠点を設け島田の魅力を観光客と市民が共に楽しむ。
- ・多くの外国人観光客が島田を訪ねる魅力溢れるまちを創出する。

